

関東地区協議会

国際連携委員会 事業計画

国際連携委員会 委員長 伊澤 英太

1 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、我が国は世界各国から多
2 くの注目が寄せられるという好機を迎え、加速するグローバル化の中、首都を有する関東
3 から恒久的世界平和や、海外との経済発展を世界へ発信できる可能性をもっております。
4 我々には「和の心」、異なる個性との調和、国際的な感覚をもち併せた精神性を養うととも
5 に、国際社会を舞台に活躍するリーダーシップをもった人財を育成することが必要です。

6 まずは、我々が世界を舞台に活躍できる国際的な感覚を養っていくために、日本人とし
7 ての精神性を醸成する強烈な原体験と、古来の日本人の心を座学で学ぶことで、違いを受
8 け入れる融和、違う個性との調和、「和の心」を確立し、自国を誇れる人財を育成します。
9 そして、我々が国際社会の一員であるということを自覚するために、ASPAC鹿児島大
10 会では外国人との言葉の壁を感じさせない日本の伝統文化に触れる参加交流型の機会を提
11 供し、アジアメンバーから国際感覚を養い、青年経済人としての友情を広げて行きます。

12 さらに、我々は青年経済人として、世界各国との経済的なつながりを構築して行くため
13 に、広がった友情から海外の先進的な国々や企業との情報交換や交流を継続的に繰り返す
14 ことで、グローバルな感覚を磨くとともに「和の心」を兼ねそなえた人財を創出致します。

15 また、世界会議ゴア大会で運動の集大成として、様々な多様性を受け入れる相互理解か
16 ら国際社会で活躍するリーダーを育成するために、同世代のJCIメンバーと交流し、グ
17 ローバルで持続可能な目標を掲げ、恒久的世界平和へとつながる運動の礎を構築致します。

18 「和の心」と国際感覚という両軸を兼ね備えた人財が溢れ、グローバル化に大きく前進し
19 た関東地区は海外諸国へ我々が誇るヒト、モノ、情報を発信し国際社会を牽引できる体制
20 が整い、目まぐるしく変化する世界情勢において変革の原動力となる関東を創造します。

21 <事業計画>

- 22 1. 日本人として精神性の確立・自国を学び世界を知る機会の提供
- 23 2. ASPAC 鹿児島大会 日本伝統文化を用いた参加交流による国際感覚の醸成
- 24 3. 世界の青年経済人との先端技術・サービスを学ぶ経済交流の実施
- 25 4. 世界各国との情報共有から織り成す持続可能な目標設定及び運動の構築

26
27
28
29
30